

## 事業概要

補助事業番号 21-1-085

補助事業名 平成21年度 アジア映画コンペティションの開催 補助事業

補助事業者名 N) 東京フィルメックス実行委員会

### 1. 補助事業の概要

#### (1) 事業の目的

##### ア) アジア映画コンペティション開催

映画についてマスコミが語られる時、どうしても興行的側面が話題に偏りがちである。それをそのまま鵜呑みにしてしまうなら、映画においては動員数といった数字が価値基準の全てであるかのように映る。しかし、一方で興行面に偏ってしまうと、もうひとつの重要な要素「多様性」が見落とされてしまうのではないだろうか。確かに産業的側面を見ると多額の資金を費やし、製作・権利売買される映画にとり興行的成功は重要な側面である。しかし私たちは映画の価値基準は動員数、興行収入といった数字だけではないと考える。作り手がいかにして素材であるテーマに取り組んでいるか——当会ではこの〈作家性〉という価値感に指標を見だし、産業を担う民間の映画会社ではカバーできない部分をNPO法人として補完し、公開規模や宣伝費の多寡にとらわれない公共的な側面から映画文化を支えることを目的とする。

1980年代以降、世界の「映画の現在」をリードしてきたヨーロッパの国際映画祭では、〈作家性〉が強く認められるアジアの新進監督に注目し、活躍の場を与えてきた。アジアからは台湾の Hou Tsao-shen、イランの Abbas Kiarostami、日本の北野武など多くの作家たちが映画祭に発見され、育てられてきた。日本にも“映画”と“映画作家”が主役であり、世界から必要とされる、真の意味におけるアジア映画コンペティションが行われる国際映画祭が東京になくしてはいけない。以上の理由から本事業（国際映画祭「東京フィルメックス」）の実施を計画した。

東京フィルメックスは、アジアを中心に過去20年にわたり、世界の映画の最先端に精通した2名のディレクターが新進作家たちの将来性も踏まえてプログラミングにあたり、製作予算の大小に関わらず既成の概念にとらわれない強烈な作家性のあふれる作品を紹介する。出品が契機となって日本での商業公開が決定したり、あるいは次回作の実現につながる、日本映画を海外に発信するといった「新しい才能に道を開くこと」が我々の果たす使命と捉えている。

本事業は以上をもって公益の増進に寄与する。

## (2) 実施内容

### ア) アジア映画コンペティション開催

「心を豊かにしてくれる真のアジア映画を、海外に発信する国際映画祭を開催し、もって公益の増進に寄与する」目的を遂行するため、「第10回東京フィルメックス」を実施して、日本をはじめとするアジアを中心に厳選した、主に新進作家たちの独創性豊かな作品群を日本の観客に紹介し、作家たちと日本の観客との創造的な交流の機会を提供し、かつ体系的に海外に発信させる。

実施会期：	11月21日(土)～29日(日)計9日間
実施会場：	東京都千代田区・有楽町朝日ホール(11/22-/29) 東京都千代田区・明治大学アカデミーホール(11/21のみ) 東京都千代田区・有楽町朝日スクエア 東京都中央区・東劇 東京都千代田区・シネカノン有楽町1丁目 東京都千代田区・丸の内カフェ
上映作品数：	70作品、98回上映
総入場者数：	23,307人
登壇ゲスト数	73人
セミナー	22プログラム

●会場別	(全9日間)
有楽町朝日ホール	(8日間、29回上映)
東劇	(9日間、20回上映)
シネカノン有楽町1丁目	(8日間、8回上映)
有楽町朝日スクエア	(7日間、セミナー9プログラム)
丸の内カフェ	(5日間、5プログラム)

以上、実施

### ●上映作品(部門別)

#### 1) 東京フィルメックス・コンペティション：

アジアの新進作家による独創的な作品を上映するコンペティション部門。国内外の計5名で組織された審査員が最優秀作品賞と審査員特別賞を選び、最終日に表彰する。全作品の監督をゲストとして招き、可能な限り上映後に観客と質疑応

答を行う。10 作品上映。

2) 特別招待作品：

作家性に富み、かつ現在の映画製作のトレンドを示す新作を紹介する部門。全作品の監督をゲストとして招き、可能な限り上映後に観客と質疑応答を行う。10 作品上映。

3) 特集上映：

映画史に足跡を残す重要な映画作品を特集。日本で紹介されていない海外の巨匠や、海外に知られていない日本の作家を特集し、国内外の映画人や観客に広く紹介する。

a) 松竹と共催で英語字幕付き日本映画特集「ニッポン★モダン 1930-もうひとつの映画黄金期」、27 作品上映

b) 東京日仏学院との共催により、「ジャン＝ピエール・メルヴィル監督特集-コードネームはメルヴィル」(14 作品上映)

4) 関連イベント

節目の第 10 回を記念して、初日にシンポジウム「映画の未来へ」を開催。北野武監督による「マスター・クラス」を開講。続く「セッション 1」では黒沢清、是枝裕和と 2 人の国際的に活躍する監督と議論、「セッション 2」では 2 監督に加え、俳優の寺島進、西島秀俊を迎えたシンポジウムを実施。また会期中、来日ゲストや日本の映画人をパネラーに招いた入場無料のセミナーを実施。またアジアの映画作家の魅力を社会へ拓く交流プログラムを行う。前者は映画ファン、映画を志す若者から実務にあたるプロ対象。後者は文化芸術に関心を抱くいわゆる映画ファンでない方々まで対象としたプログラム。これらにより映画上映以外の形でもアジアの若手の才能の発信する機会を設ける。さらに今年は東京国際映画祭の 2 人のディレクター、山形ドキュメンタリー映画祭東京事務局ディレクターと東京フィルメックスの 2 名のディレクターとで、「映画祭を考える」と題したフォーラムを行った。

2. 予想される事業実施効果

ア) アジア映画コンペティション開催

2000 年に誕生した国際映画祭「東京フィルメックス」。第 10 回目となった今年も日本をはじめとするアジアを中心に厳選した、主に新進作家たちの独創性豊かな作品群を日本の観客に紹介し、作家たちと日本の観客との創造的な交流の機会を提供しつつアジアの映画を広く世界に”発信”する「コンペティション」と同時に、「特別招

待作品」や「特集上映」では国籍に関係なく「現在の世界の映画のトレンド」を包括的に”受信”するという”受信基地”としての役割を広く印象づけ、動員も23,307人と前年(=16,836人)比約38%増加して盛況のうちに閉幕した。

#### ●新しい才能の紹介

アジアのどの作家が2009年の現在「どこに目を向けているか」を見極めセレクトした。その結果、過去にも紹介したことがある作家たち(バフマン・ゴバディ、ハナ・マフマルバフ、柴田剛)が新展開を見せていて世界的に注目を集めている点、と同時に東南アジアのマレーシア、スリランカといった国、地域からも起きているムーヴメント(「2つの世界の間で」、「セルアウト!」)に注目し、キャリアを着実に刻むペンエーグ・ラッタナルアーン(「ニンフ」タイ)、チャン・ツォーチ(「お父さん、元気?」台湾)双方をミックスさせた。さらに特別招待では日本からは近年稀にみる活躍をみせる大森立嗣、また豊田利晃復活作となる「蘇りの血」選出しプログラムした。

彼らの何人かは現在、フランスを中心としたヨーロッパで「将来を担うであろう才能」として注目されている。そこでアジアの先進国、日本から体系的にアジアの新しい才能を紹介するという従来のコンセプトに基づいたセレクトを行った。また「特別招待作品」として日本で商業公開となると難しい点も鑑み、「世界のトレンド」の日本への紹介と合わせて競わせることにより、2009年の新しい映画の流れを提案出来たと言える。

#### ●うもれた作品の発掘

特集上映として2つの特集が組まれた。

- ・ 日本で劇場未公開作だった犯罪映画の巨匠ジャン＝ピエール・メルヴィルの全貌を紹介した。
- ・ 海外では無名だが、日本が誇る財産を、英語字幕付きで世界に向けて発信するために、1930年代の黄金時代をフィーチャーし、とりわけ生誕100年を迎えた女優の田中絹代に焦点を当てるなどバリエーションに富んだプログラムとなった。

これらは貴重な鑑賞の機会になったことに加え、出品ゲストのみならず、現在、現役で映画を撮っている国内外の映画作家たちにも大きな衝撃を与えた。映画祭は出来上がった映画を紹介するのみならず、特集上映を充実させることにより、映画史の再考に取り組み、歴史から今後の映画が進むべき道・可能性を示すことが率先して出来

るので、タイプの異なる2つのプログラムは今年こそトライすべき挑戦であった。

### 3. 本事業により作成した印刷物等

ポスター	1,000 枚
リーフレット	20,000 枚
チラシ	80,000 枚
公式カタログ	3,000 部

そのほか、劇場看板（有楽町マリオン）、バックボードなどを制作し、「競輪補助事業」である旨、露出をアピールした。

※尚、貴法人制作の「Ring Ring」のCFを有楽町朝日ホールにて29回、シネカノン有楽町1丁目にて8回、計37回上映した。

### 4. 事業内容についての問い合わせ先

団体名： 特定非営利活動法人東京フィルムメックス実行委員会  
（トクテイヒエイリカツドウホウジントウキョウフィルムメックスジッコウイインカイ）

住所： 107-0052  
東京都港区赤坂5-5-11 赤坂通り50番ビル 3F

代表者： 理事長 蓮沼 健（ハスヌマ ケン）

担当部署： 事務局（ジムキョク）

担当者名： スタッフ 金谷 重朗（カナヤ シゲオ）

電話番号： 03-3560-6393

F A X : 03-3586-0201

E-mail : [canalla@filmex.net](mailto:canalla@filmex.net)

URL : <http://www.filmex.net/index.htm>